

図7 住居数の変化と地域別内訳

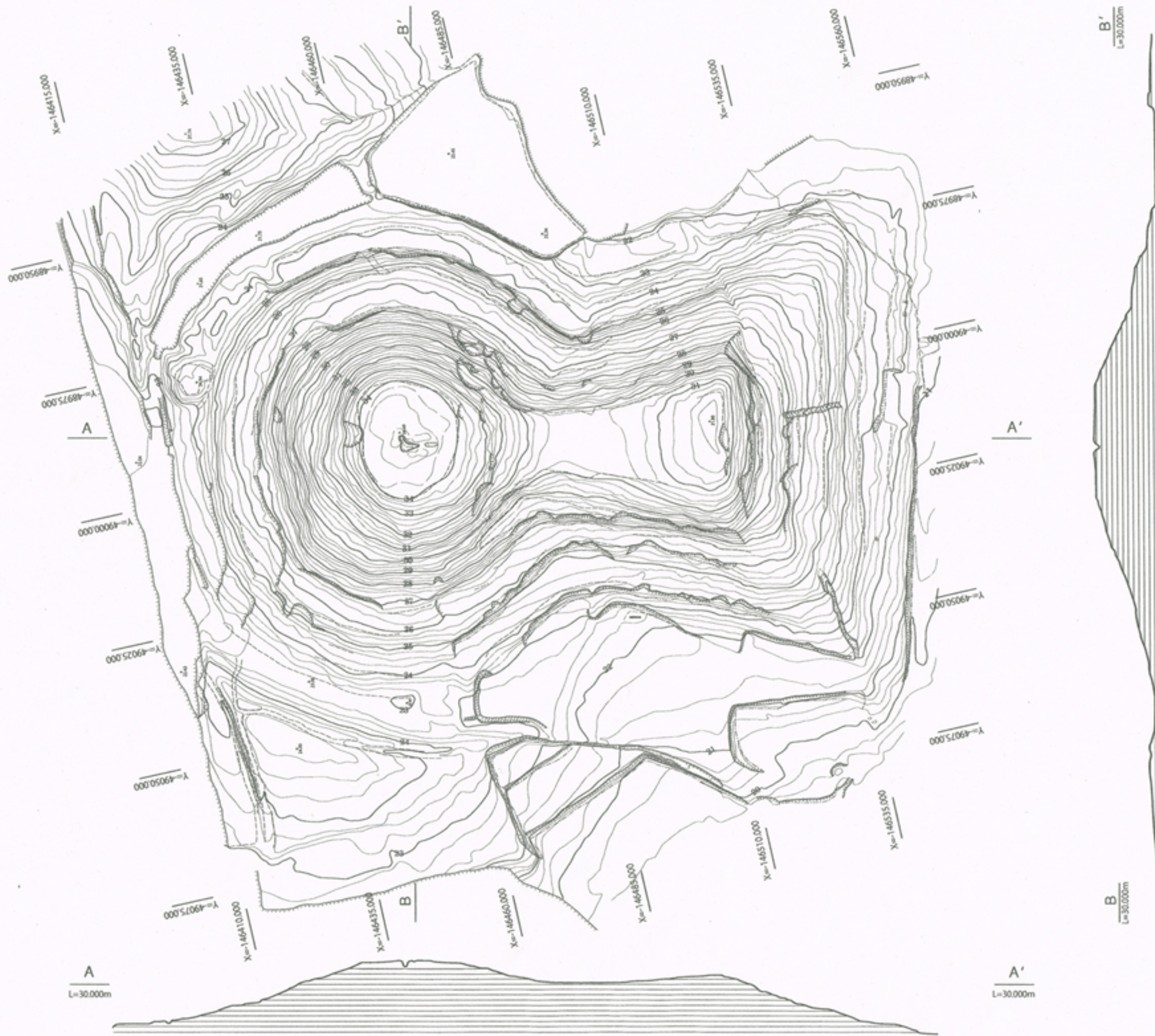
中期後半、後期前半、後期後半の三つの段階は、それぞれに須恵器型式の二つずつが当てられるため、実際の時間幅に著しい格差があるとは考えにくい。また、この三つの段階の住居はいずれもカマドの付いた4本柱の竪穴住居を標準とし、その構造や大きさはほとんど変わらないので、使用の期間や人数に違いが生じた可能性も乏しい。したがって、この三段階を通じて認められる住居数の推移は、ほぼ人口変化のあらましを反映していると判断できる。この人口変化と、それが示唆する社会変動についても、次章での墳墓の分析を経て考察を深めることにしよう。

人口変化の空間的動態 次に、図8によって、各時期の住居数の地域別内訳を、とくに西部地域と東部地域との対比を一つの視点にしながら検討し、上記の人口変化のプロセスの空間的な動態を明らかにしてみたい。

まず、さきに図7でみた弥生時代末～古墳時代前期初頭から前期後半に至る住居数の急激な落ち

	250		400			500		500		600	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
250m						応神陵 仁徳陵					
200m				神功皇后陵	履中陵	造山			河内大塚		
150m	養墓 西殿塚	崇神陵	最行陵 メスリ山		仲津媛陵	作山					
100m				日葉酢媛陵	平城陵 宮山 成務陵 墓山 (男狭穂塚)	太田茶臼山	にさんざい 允恭陵	仲哀陵		見瀬丸山	
				津堂城山 摩湯山 五色塚	垂仁陵 築山 神明山	ウワナベ コナベ 磐之媛陵 太田天神山					
	桜井茶臼山			金蔵山	久津川車塚 西陵 網野銚子山 御墓山	新木山	宇度墓 雨宮山				
				巢山 蛭子山 (小盛山)	(秋常山) 浅間山		河合大塚山 鐘子塚	白鳥陵	今城塚 (丸墓山)		
			西山 安土瓢箪山	撫山 島の山 乳の岡 屋敷大塚 甲斐銚子塚 太田茶臼山	(乙女山) 古室山 百舌鳥大塚山 いたすけ 女狭穂塚 常陸梵天山 白石稻荷山 名取雷神山	百舌鳥御廟山	舟塚山	狐井城山 馬塚			
	浦間茶臼山	東殿塚	尾上車山	東大寺山 (富雄丸山) 貝吹山 (甲斐丸山塚)	壇場山 佐古田堂山 富田茶臼山 (兜塚) (免鳥長山) (女体山)	雲部車塚 (八幡山) 内裏塚		宣化陵 七輿山	石上大塚 断夫山	別所大塚	(岩屋)
	中山大塚 黒塚 椿井大塚山 弁天山A1号 豊前石塚山	アノ山 平尾城山	青塚茶臼山 手繰ヶ城山 前橋八幡山	二ツ塚 玉手山7号 松岳山 石山 坊の塚 守山白鳥塚 六呂瀬山 前橋天神山	野中宮山 玉丘 神宮寺山 北山1号 宝塚1号 (野毛大塚) 愛宕山 大鶴巻	屋敷山 大鳥塚 池田 石人山 (女良塚) 御富士山	黒姫山 御所山 (白鳥塚) 井出二子山	西乗鞍 反正陵 九条塚 摩利支天塚	安閑陵 岩戸山 琵琶塚 築瀬二子塚 前二子	前橋二子山	(千駄塚) 八幡観音塚
	久里双水	下池山 燈籠山 中山茶臼山	フサギ塚 新山 花光寺山 鶴山丸山 柳井茶臼山 一貴山銚子塚 松林山	佐味田宝塚 (温江丸山) (月の輪) 天神山 上侍塚 稻荷森	ナガレ山 瓢箪山 恵解山 白鳥 洪野丸山 亀塚 長目塚 唐仁1号 (明合) 甲斐天神山	はさみ山 船塚 宝塚2号 零塚 堂山 三之分目 岩鼻二子山	横瀬 笹塚	郡山新木山 平塚	宇治二子塚 仁賢陵 清寧陵 中二子	ウワナリ塚 こうもり塚 笹森稻荷	欽明陵 (鼓ノ塚)
	馬口山 波多子塚 元稻荷 森1号 西求女塚 丁瓢塚 網浜茶臼山 那珂八幡	天神山 塚原 手山3号	寺戸大塚 玉手山1号 白米山 馬の山4号 金立銚子塚 藤本観音山	天皇ノ杜 和泉黄金塚 垣内 法王寺 和運大塚山 能褒野王塚 粉糠山 寺谷銚子塚 矢場薬師塚 亀ヶ森	風吹山 (豊中大塚) (豊塚) (鴨谷東1号) (産土山) (椿山) 長浜茶臼山 殿塚 (伊勢塚) 上ノ塚 (公御塚)	(新宮) 三ツ城 岩原双子塚 雨宮 妙感寺	(糸井大塚) 登越 舟山 不動山 鶴山	埼玉稻荷山 保渡田八幡塚 (丸塚山)	埼玉二子山 三条塚 府中愛宕山 筑波八幡塚	山代二子塚 綿貫観音山	(石舞台) 金鈴塚 (宝塔山)

墳丘の形は字体と()の有無で表示 …正体=前方後円墳、斜体=前方後方墳、(正体)=円墳、(斜体)=方墳
 墳丘の規模は主丘部寸法で表す(円墳は径、方墳は長辺の長さ、前方後円墳・前方後方墳の場合はそれぞれ後円部径・後方部長辺の長さ)
 所在地域は色と下線の有無で表示 …黒=大和、青=大和以外の畿内、緑=畿内より西の諸地域、緑で下線有=吉備、赤=畿内より東の



图、小造山古墳墳丘測量図 S=1/750

